

ラウル・デュフィ

- 1877年 フランスの1877年6月3日、港町ル・アーヴルに生まれる
音楽一家で、プロまたはアマチュアとして活躍している
- 1892年 家計を助ける為、中学校を離れ貿易会社で働く
後にル・アーヴルとニューヨークを結ぶ太平洋定期船「ラ・サヴォア」で秘書となる
- 1895年 ル・アーヴルの市立美術学校の夜学に通う
- 1898～99年 兵役につく
病身でヴォージュ地方のヴァル・ダジョルに滞在
- 1900年 市から奨学金を貰い、パリの国立美術学校エコール・デ・ボザールへ入学
ジョルジュ・ブラックと学友となる
印象主義の影響を受ける
- 1902年 ベルト・ヴェイルを紹介されて、彼女のギャラリーにパステル作品を納入
- 1903年 アンデバンダン展に初出品
- 1905年 サロン・デ・ザンデパンダンで見て、フォービズムに関心を向けリアリズムに興味を失う
- 1906年 ベルト・ヴェイル画廊で個展を開く
- 1907年 結婚
生活の為、木版画の制作を始める
- 1908年 ブラックとエスタックで制作、立体派的な構図を研究
セザンヌ風様式を採用。フォービズムから離れていく
- 1909年 フリエスとミュンヘンに旅行
- 1910年 ギヨーム・アポリネールと親交を結ぶ
- 1911年 豪華王と呼ばれたファッション・デザイナーのポール・ポワレと知り合い、
仕事で木版刷りで布地のテキスタイルデザインをプティット・ユジーヌ工場で創る
- 1912年 フランスのシルク製造業を率いたリヨンのビアンキーニ・フェリエ商会と
デザイナー契約を結ぶ
- 1913年 南仏イエールに滞在
- 1914年 第一次世界大戦が起こり陸軍郵便事業に従事
- 1918年 ジャン・コクトーの舞台デザインを手がける
- 1919年 ヴァンスに滞在
アポリネール「虐殺された詩人」、マラメル「恋歌」の挿絵を制作
- 1920年 パリに戻りモンマルトルのジョルジュ・ブラックの近所に居を構える
- 1925年 「シャトー・ドゥ・フランス」シリーズが国際装飾美術展で金賞
- 1938年 パリ万国博覧会電気館の装飾の依頼を受ける
フレスコ画の巨大壁画「電気の精」を描く
- 1943年 「オーケストラ」「アトリエ」の連作を制作する
第二次大戦中はスペイン国境に近い村に逃れて友人と共に暮らす
- 1950年 リューマチの治療のためボストンへ渡米
- 1952年 ヴェネツィア・ビエンナーレで国際大賞を受ける
- 1953年 フランス、フォルカルキエにて消化管出血のため死3月23日に死去(75歳)
ニース市の郊外にあるシミエ修道院墓地に埋葬される